

# 授業計画（シラバス）

## 保育学科

### 2年

クリックすると該当のページへジャンプします

- ・相談援助
- ・教育職業論
- ・保育者論
- ・子どもの保健Ⅱ
- ・子どもの食と栄養
- ・家庭支援論
- ・青年心理学
- ・健康の指導
- ・人間関係の指導
- ・表現の指導
- ・地域子育て論B
- ・社会的養護内容
- ・表現の指導（音体）
- ・表現の指導（造形）
- ・児童文化
- ・教育方法論
- ・幼児相談論
- ・保育相談支援
- ・造形Ⅱ
- ・音楽Ⅲ
- ・保育・教職実践演習（幼稚園）
- ・教育実習
- ・教育実習指導
- ・保育実習Ⅱ
- ・保育実習指導Ⅱ
- ・保育実習Ⅲ
- ・保育実習指導Ⅲ
- ・ゼミナール（田中）
- ・ゼミナール（鈴木）
- ・ゼミナール（實吉）
- ・ゼミナール（高木）
- ・ゼミナール（照井）
- ・ゼミナール（野口）
- ・進路・生活指導

科目名 (英語名)	相談援助 Social work		科目コード	(ふりがな) 担当者	たなか としのり 田中 利則	専任・非常勤
			233130			専任
1単位	開講期	後期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] この教科は基本的には演習科目である。 授業中の私語、携帯電話の通話、メール、SNS利用、お化粧品、他の科目の作業などは禁止します。学生は講義の開始前から学習する心構えを意識ながら臨むことを期待する。						
[授業の具体的到達目標] クライアントと係わる基本的な知識や技術を習得する必要があるため、講義と演習の二本立てで授業を進める。また、必要に応じて、実社会で生じた事件や事象などについて、教員と学生で論議し相談援助に必要な知識情報を理解する。基本となるのは保育関連の知識や情報なので日常の事前学習を丁寧に行っていただきたい。						
[授業の概要] さまざまな生活上の困難を抱える人たちの状況に関心を持つと共に、これらの人たちを支える必要性と意義について考えながら授業を行う。主に相談援助の基本的な原理・原則を中心に学び、見ること、聞くこと、知ること、感じることなどの相談技術の演習を行い、技術や方法を身につける。また、必要に応じて演習や事例の検討を行い、実践力を高める。						
[授業計画]						[担当]
1回	オリエンテーション					
2回	相談援助の必要性					
3回	現代家族の生活環境の変化					
4回	相談援助活動の理解					
5回	相談援助の基本的な技術と心得					
6回	保育士に求められる基本的な姿勢					
7回	相談援助の具体的な展開過程					
8回	相談援助における記録					
9回	相談援助の質を高めるためのアプローチ方法					
10回	相談援助の専門家・関係機関との連携					
11回	保育士とグループワーク					
12回	事例検討①					
13回	事例検討②					
14回	事例検討③					
15回	まとめ					
試験等	小テスト及びレポートの提出を2回実施する。					
[成績評価] ・授業態度 40%・授業中の小テスト 40%・レポート 2本 20% (総合評価)						
[準備学習 (予習・復習等の内容)] ・保育ソーシャルワークに関する知識や技術に関する情報を持ち、保育士の仕事の理解を図っておくことを期待します。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	子どもの生活を支える相談援助	田中利則 編	ミネルヴァ書房			
		小野澤 昇 編				
		大塚良一 編				
参考文献						
[備考] ・テキスト、資料中心の講義を行い、加えて、テーマを決めて議論を行います。必要に応じてDVDを使用します。 ・リファレンスシート(反省や質問、意見)を使用します。 ・質問や疑問はメール(t-tanaka@shohoku.ac.jp)で対応することも可能です。						

科目名 (英語名)	教育職業論 The Theory of Teaching Profession		科目コード 233160	(ふりがな) 担当者	こなか もとこ 古仲 素子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 特になし。						
[授業の具体的到達目標] 現代における教職の問題状況と照らし合わせながら、教職についての理解を深め意欲を高めるとともに、教師にとって不可欠な反省的実践家としてのあり方を身につけることができる。						
[授業の概要] 現代社会における教職をめぐる様々な問題状況を理解し、その解決に向かうための手がかりとなるような教職にかかわる思想や理論、歴史、制度に関する基礎知識を学ぶとともに、具体的な事例を参照しつつ教職について考察を行う。						
[授業計画]						[担当]
1回	オリエンテーション——教職を取り巻く問題状況					
2回	教職とは何か(1)					
3回	教職とは何か(2)					
4回	近代学校と教職の成立・制度の変遷					
5回	歴史の中の教師					
6回	教師に求められる資質能力					
7回	カリキュラムをデザインする					
8回	個性の重視とその問題点					
9回	いじめについて					
10回	反省的実践家としての教師					
11回	教師文化と同僚性					
12回	教師の仕事とジェンダー					
13回	教師のライフコース					
14回	専門職としての教師					
15回	まとめ					
試験等	論述試験					
[成績評価] 学期末試験 70%、毎回のレスポンスシート 30%の比率で総合的に評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 予習:特になし。 復習:配布されたプリントをもう一度見直し、興味を持った事項に関して調べるなどして理解を深める。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特に使用しない。					
参考文献	新しい時代の教職入門	秋田喜代美・佐藤学ほか	有斐閣			
[備考] ・メールで質問を受け付けます。メールアドレス:sax911love74@yahoo.co.jp ・資料映像を観て感想を書いてもらうことがあります。						

科目名 (英語名)	保育者論 Theory of Teacher		科目コード 233162	(ふりがな) 担当者	さねよしあきこ 實吉 明子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 1、2年次の学びをベースとして、学習を進めます。また、各実習との関連を念頭におき、卒業後の進路を見据えて授業を利活用するつもりで臨むと学習が深まります。						
[授業の具体的到達目標] 保育者の役割を理解し、専門性を持った保育者について学びます。さらに、保育に携わる専門職としての社会的役割の広がり理解するに留まらず、保育者としての自らの成長を捉えることができるよう、時間軸の中に視座を置き、保育者について考えます。						
[授業の概要] 一人一人が保育者について考える視点を持てるよう、文献購読、視聴覚教材の視聴、ディスカッション、発表等を交えて授業を行います。また、質問の時間を設けますので、積極的に要領を得た質問ができるよう工夫し、主体的に学びましょう。						
[授業計画]						[担当]
1回	職業としての保育者について考える					實吉
2回	資格・免許 ―その法的根拠―を確認する					實吉
3回	保育者の専門性と倫理 ―信頼される保育者をめざして― 保育者倫理綱領を知る					實吉
4回	保育者のキャリア形成について考える①					實吉
5回	保育者のキャリア形成について考える②					實吉
6回	研修・評価について知る					實吉
7回	保育者の役割について考える①					實吉
8回	保育者の役割について考える②					實吉
9回	保育者の役割について考える③					實吉
10回	子どもの生活と保育者― 命を守るために ― 知り、感じ、考える					實吉
11回	保育者としての配慮を理解する					實吉
12回	園の管理・運営を知る ―園の機能を十分に発揮するために―					實吉
13回	園の管理・運営を知る ―人・物―					實吉
14回	園の管理・運営を知る ―事務・計画―					實吉
15回	まとめ―保育者の専門性・役割・課題について考察する					實吉
試験等	レポート					實吉
[成績評価] 総合評価：受講態度・ディスカッション状況 (20%)、授業内提出物・最終レポート (80%)						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 板書は最小限にとどめて進度を早めるので、口述筆記の工夫をすること。毎回、復習をして次回の授業に臨むこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	保育者論	田中まさ子 編	みらい			
参考文献	保育所保育指針	厚生労働省				
	幼稚園教育要領	文部科学省				
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領	内閣府				
[備考] ・疑問点は授業時に積極的に質問しましょう。社会人となるには、マナーに則った質問の仕方を覚えることも大切です。						

科目名 (英語名)	子どもの保健Ⅱ (Child Health Ⅱ)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(せきぐちけいこ) 関口 恵子	専任・非常勤
			233190			非常勤
1 単位	開講期	2 年前期	授業方法	講義/演習		
<p>[履修条件、準備等]</p> <p>○『子どもの保健Ⅰ』を履修していること。  ○身近な乳幼児の様子や母親の関わりを観察しておく、さらに楽しい学習・援助技術の習得ができます。  ○演習では髪をまとめ、爪を切って動きやすい服装で受講して下さい。</p>						
<p>[授業の具体的到達目標]</p> <p>1) 施設内等における子どもの保健活動の計画および評価のための知識・技術を学ぶ。2) 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。3) 子どもの疾病とその予防および適切な対応について具体的に学ぶ。4) 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。5) 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等を理解する。</p>						
<p>[授業の概要]</p> <p>子どもの保健活動の計画および評価のための健康状態の観察技術を学ぶ。『子どもの保健Ⅰ』の学習を踏まえて、子どもの健康増進、発達、安全管理のための環境整備、子どもの疾病への適切な対応、予防、救急時の対応などについて学ぶ。また子どもの健康福祉や母子保健などの地域活動などについて理解し、家庭、地域、専門機関との連携のありかたを学ぶ。</p>						
[授業計画]						[担当]
1 回	本講義履修に際しての基礎的知識と演習における基本的な姿勢 (演習方法、グループ編成)					関口
2 回	<b>【演習】手洗い</b>					関口
3 回	保健活動の記録と自己評価 (健康状態の観察、バイタルサインの測定; 体温、脈拍、呼吸、血圧)					関口
4 回	<b>【演習】バイタルサインの測定</b>					関口
5 回	<b>【演習】身体計測; 身長、体重、頭囲、胸囲</b>					関口
6 回	子どもの健康と環境 (生活習慣と健康、発達援助; <b>【演習】乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴</b> )					関口
7 回	子どもの疾病と適切な対応 1 ((疾患に対する看護; 熱中症)					関口
8 回	症状別看護 1—発熱					関口
9 回	対症看護—与薬、電法 <b>【演習】電法</b>					関口
10 回	症状別看護 2—嘔吐、下痢、咳、発疹など					関口
11 回	症状別看護 3—痙攣、呼吸困難、食事性アレルギーなど					関口
12 回	保育における看護と応急処置 1 (脱臼・火傷・熱傷、出血 <b>【演習】止血法、固定・包帯法</b> )					関口
13 回	保育における看護と応急処置 2 (人工呼吸、異物誤嚥、AED)					関口
14 回	事故防止及び健康安全 <b>【演習】救急処置、救急蘇生法</b>					関口
15 回	トピックス (食物アレルギーへの対応、エピペン注射など)					関口
試験等	試験 (実技・レポート)					関口
<p>[成績評価]</p> <p>実技演習・課題レポート 70%、 演習等への受講姿勢 20%、 出席状況 10%</p>						
<p>[準備学習 (予習・復習等) の内容]</p> <p>実技演習の基礎的知識 (特に疾患別・症状別看護) として『子どもの保健Ⅰ』を復習しておくこと。</p>						
	書名	著者	出版社			
テキスト	子どもの保健Ⅱ	白井幸子	医歯薬出版			
参考文献	子どもの保健	巷野悟郎	診断と治療社			
<p>[備考]</p> <p>○授業は、実技演習とグループ討議が中心ですので、出席して体験することが重要となります。  ○第 5 回目授業 (身体計測) では、可能な方は自分 (なければ兄弟なども可) の母子手帳を持参してください。</p>						

科目名 (英語名)	子どもの食と栄養 Nutrition for children		科目コード 233195	(ふりがな) 担当者	(ふせ まりこ) 布施 眞里子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	通年	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] クラス編成、授業スケジュールを確認のうえ、出席のこと。後期の実習の回は、エプロン、三角巾またはバンダナ、ハンドタオルを準備し、つめは短く切りマニキュアは必ずとって臨む。事前に実習材料費を集めるので、用意すること（全回分で1,500円）。						
[授業の具体的到達目標] 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める 3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する						
[授業の概要] 食事をおいしく楽しくとることが、心も体も健康に育つ上で基本となる。前期は栄養の基礎を学ぶと共に、子どもの食事の在り方や食生活の問題点について調査発表（5～9回）を通して考察し、食育の重要性を学ぶ。後期は、子どもの成長段階や身体状況に対応した栄養や食物の摂取法とその調理法について、実習を交えながら学ぶ。						
[授業計画]		[担当]	[授業計画]		[担当]	
1回	子どもの心身の健康と食生活の意義	布施	16回	乳児期の食生活（乳汁栄養）	林	
2回	子どもの発育・発達と栄養	同上	17回	同上	同上	
3回	栄養の基本的概念、自分の食生活の振り返り	同上	18回	献立・調理の基本、乳児期の食生活（離乳の意義）	同上	
4回	栄養素の種類、エネルギーと生命活動	同上	19回	離乳食の調理①（5～6、7～8か月）	同上	
5回	子どもの食生活の現状と課題（発表）	同上	20回	同上	同上	
6回	同上	同上	21回	離乳食の調理②（9～11、12～18か月）	同上	
7回	同上	同上	22回	同上	同上	
8回	同上	同上	23回	幼児期の食生活	同上	
9回	同上	同上	24回	幼児食の調理	同上	
10回	同上	同上	25回	同上	同上	
11回	子どもの食生活の現状と課題（食育）	同上	26回	間食の調理、食育	同上	
12回	食事摂取基準、食品の基礎知識	同上	27回	同上	同上	
13回	栄養素の働き①	同上	28回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	同上	
14回	栄養素の働き②	同上	29回	食物アレルギー対応食の調理	同上	
15回	学齢期・生涯発達と食生活	同上	30回	同上	同上	
試験等			試験等			
[成績評価] 前期（布施）50%・後期（林）50%として合算する。 授業及び発表時の参加状況10%、提出物40%、試験50%（布施） 受講態度含む40%、提出物60%（林）						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 後期は、事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	新版 子どもの食生活	上田 玲子 編著	ななみ書房			
参考文献						
[備考] 上記以外の担当者：後期 <sup>はやし のりこ</sup> 林 典子（専任）						

科目名 (英語名)	家庭支援論 (Family Support)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(てるい ゆうこ) 照井 裕子	専任・非常勤
			233200			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 子どものいる家庭や家族に関するニュース、また子どものいる家庭に対する各種支援に関するニュースに目を向けるよう心がけること。						
[授業の具体的到達目標] 現代の子育てを取り巻く現状を理解の上、保育者による家庭に対する支援の意味や可能性についての学びを深める。さらに、実際の保育場面で必要となる家庭支援のための基礎的知識や支援者としての視点・姿勢を獲得する。						
[授業の概要] 統計的資料や事例等を用いながら現代の子育て環境や保育者による家庭向けの支援に関する基礎を解説する。また、クラス内で事例に基づいたワークなどを適宜取り入れながら授業を進める。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	家庭の機能と家庭生活を取り巻く社会的状況					
3回	子育て家庭のワークライフバランス					
4回	子育て中の保護者の心理①					
5回	子育て中の保護者の心理②					
6回	子育て支援の政策動向と展望					
7回	支援の意味を考える①					
8回	支援の意味を考える②					
9回	支援の対象を捉える視点①					
10回	支援の対象を捉える視点②					
11回	子育て家庭に対する支援の実際①					
12回	子育て家庭に対する支援の実際②					
13回	特別なニーズをもつ家庭への支援①					
14回	特別なニーズをもつ家庭への支援②					
15回	子育て支援とその課題					
試験等	レポート提出					
[成績評価] 授業内の提出物 50%、レポート 50%の比率で総合的に評価する。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 必要に応じて事前に資料等を配布するので、指示があった場合には授業前に資料に目を通したうえで授業に臨むこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献	児童の福祉を支える家庭支援論	吉田 眞理	萌文書林			
[備考] オフィスアワーを設定する。時間等は研究室前に掲示するので確認の上、来室すること。 授業の進行は主にパワーポイントにより行う。また、授業内容によりビデオ視聴によるワークを行う。 課題の提出には学内 E-learning システム Moodle を使用する。						

科目名 (英語名)	青年心理学 (Adolescence Psychology)		科目コード 233205	(ふりがな) 担当者	(すずきひろみつ) 鈴木弘充	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 青年期の心理学に関心があること						
[授業の具体的到達目標] 自分を含め、青年期の心理について、より深く考えられるようになる。						
[授業の概要] 青年期の心理的課題や「問題」を通して、青年期の心理を学ぶ。						
[授業計画]						[担当]
1回	青年期とは何か					
2回	青年期の現代的傾向					
3回	摂食障害					
4回	対人恐怖1 定義・種類					
5回	対人恐怖2 背景・要因					
6回	境界性パーソナリティ障害1 症状					
7回	境界性パーソナリティ障害2 背景と要因・関わり方					
8回	コミュニケーションの問題					
9回	青年期の孤独感1 類型					
10回	青年期の孤独感2 発達					
11回	青年期の劣等感1 内容と発達					
12回	青年期の劣等感2 劣等感への対処					
13回	恋愛					
14回	恋愛と結婚					
15回	まとめ					
試験等	レポート					
[成績評価] レポートの内容による						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 普段から、青年に関する新聞記事やニュース等に注意して読む(見る)。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設けるので、質問等に利用してください(時間は研究室ドア付近に掲示)。						

科目名 (英語名)	健康の指導 Instruction in Health		科目コード 233215	(ふりがな) 担当者	おがさわら だいすけ 小笠原 大輔	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	通年	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」の熟読						
[授業の具体的到達目標] ① 自身の健康についての意識を高め、健康な生活を送ることができるようになる。 ② 子どもたちの健康を守るために保育者が果たす役割、保育者としての援助・配慮を考えられるようになる。 ③ 健康教材の作成・発表を通して、具体的な健康指導を実践する力をつける。						
[授業の概要] 自身の健康についての意識を高め、「健康な生活とは何か」を考える。また、保育者として子どもの健康をどのように守り、どのように援助、指導していくのか、各テーマに沿って学んでいく。まとめとして、前期は期末試験を行い、後期は健康指導教材の発表等を行う。 ※隔週授業						
[授業計画]						[担当]
1回	健康とは何か					
2回	発育と発達					
3回	運動遊びの意義と体力					
4回	病気と怪我					
5回	こころとからだ					
6回	安全管理と安全教育					
7回	試験					
8回	試験解説					
9回	幼児の健康に関する諸問題①、教材研究発表会の説明					
10回	幼児の健康に関する諸問題②					
11回	基本的な生活習慣①					
12回	基本的な生活習慣②					
13回	食育					
14回	教材研究発表会					
15回	まとめ					
試験等	前期：期末テスト 後期：教材研究発表会					
[成績評価] 授業内試験：40% 発表・課題：40% 意欲・態度：20%						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 自身の健康について意識するとともに、現代における健康に関する情報を収集し、諸問題を把握しておく						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	保育所保育指針 解説書	厚生労働省				
[備考]						

科目名 (英語名)	人間関係の指導 (Instruction in Human Relationship)		科目コード 233225	(ふりがな) 担 当 者	(たかき ゆうこ) 高木 友子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義・演習	
[履修条件、準備等] 板書以外もノートを取り、記録を作成すること。						
[授業の具体的到達目標] 保育における人間関係領域の活動と配慮事項について理解し、保育実践への準備を整える。						
[授業の概要] 保育における人間関係領域の基礎的知識、実践例、解釈などを講義し、実習などの実践から人間関係領域について省察する。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	保育の基本					
3回	領域「人間関係」1					
4回	領域「人間関係」2					
5回	教育実習に向けて1					
6回	教育実習に向けて2					
7回	新生児の人への関心					
8回	人との関係の始まり					
9回	人とのかかわりの基盤					
10回	自我の発達					
11回	道徳性の芽生え					
12回	思いやりと社会性の発達					
13回	口頭発表					
14回	口頭発表					
15回	まとめ					
試験等						
[成績評価] 授業中の発表内容に受講態度を加味する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 学習内容を実習や実践に生かすよう努力すること。また、口頭発表の事前準備としても2年次の実習を充実させ、省察を行うこと。						
	書名	著者		出版社		
テキスト	人間関係	小櫃智子・谷口明子(編)		一藝社		
参考文献						
[備考]						

科目名 (英語名)	表現の指導 GUIDANCE OF PLAYING		科目コード	(ふりがな) 担当者	おおの めぐみ 大野 恵美	専任・非常勤
			233235			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 保育現場で作品を発表する出張公演のために、自主的に練習し授業を受ける準備をしてください。 2コマ連続で授業を行います。						
[授業の具体的到達目標] 幼児教育者として必要な表現指導の方法を、2年間の集大成として作品にまとめ、保育の現場での発表を体験することにより、幼児と関わる空間を実践的に学習することができます。						
[授業の概要] グループに分かれ、グループごとに作品の「テーマ」を決め、脚本を制作しそれに基づいて作品創りをを行います。 作品は市内保育所・厚木市子育て支援センターで発表し、子どもおよび園からの評価を仰ぎ、子どもに関わる空間創りについて学びます。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス：グループごとに「テーマ」決め、ディスカッションを重ねる。〈台本制作開始〉					全教員
2 回	〈台本制作〉：キャストと台詞の配分について内容を討議する					全教員
3 回	〈役割分担〉：台本制作・音楽・小道具・衣装にわかれ、完成までスケジュールを組み作業を開始					全教員
4 回	〈役割分担〉：役割ごとに話し合い作業をおこなう					全教員
5 回	〈台本合わせ〉：本読み 台本の修正をする					全教員
6 回	〈台本合わせ〉：立ち稽古 キャストの調整・小道具・音楽の導入について検討する					全教員
7 回	〈中間発表〉の用意をおこなう（造形物の確認）					全教員
8 回	〈中間発表〉					全教員
9 回	〈作品内容の確認〉音楽・小道具の細かな調整をおこないながら練習を重ねる					全教員
10 回	〃					全教員
11 回	〈作品の仕上げ〉グループ同士で見せ合い意見交換をおこない作品内容を高める					全教員
12 回	〃					全教員
13 回	〈リハーサル〉					全教員
14 回	〈出張公演〉本番					全教員
15 回	反省会 「2グループの発表」 総括					全教員
試験等	試験など					全教員
[成績評価] 受講態度（主体性、協調性、継続性） 60% 作品の完成度（テーマ、アイデア、表現力） 40%						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 多くの人数で行うグループワークですので、スケジュールを早めに立て、全員で確認を行いながら活動して下さい。 役割分担をしっかりと行い、期日までの目標を設定しながら作業を進めましょう。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	「出張公演」DVD					
	「人形劇」DVD					
	「卒業ステージ公演」DVD					
[備考] 上記以外の担当者： <small>おおつかしゅうへい たごあやか あかいひろみ</small> 大塚 習平・多胡 綾花・赤井 裕美・(専任4名)、 <small>むらかみひろと</small> 村上 弘人 (非常勤講師1名)						

科目名 (英語名)	地域子育て支援論B (Community-based Childcare Support B)		科目コード	(ふりがな) 担 当 者	(かめい みやこ) 亀井 美弥子	専任・非常勤
			233245			専任
1 単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 関連施設あゆのこ保育園での子育て支援活動「あゆのこ・ちよっとチャット」に主体的に参加すること。 そのための準備や報告を行うこと。						
[授業の具体的到達目標] 子育て支援活動への参加を通して、親子とのかかわりを中心とした支援の実践力とともに、活動の方針を立てたり具体的にどのような準備を行うかなどの計画力も養う。						
[授業の概要] 保護者や家庭の子育てに対する支援的かかわりを学ぶ。この授業では、大学内の演習だけでなく関連施設あゆのこ保育園における子育て支援活動に参加する。支援の計画・準備・実践・振り返りを行う。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス					
2 回	子育て支援の実践活動					
3 回	活動の振り返り					
4 回	講義：子育て支援の理念					
5 回	活動の準備					
6 回	子育て支援の実践活動					
7 回	活動の振り返り					
8 回	講義：子育て支援の活動の種類					
9 回	活動の準備					
10 回	子育て支援の実践活動					
11 回	活動の振り返り					
12 回	活動の準備					
13 回	活動の準備					
14 回	子育て支援の実践活動					
15 回	活動の振り返り					
試験等						
[成績評価] 実践への参加と準備および振り返りレポート 80%、授業態度 20%						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 親子遊びを自分で調べて、計画を立てる。そのために、学生グループで連絡を密に取り、役割の確認など怠らないようにする。						
	書 名	著 者	出 版 社			
テキスト						
参考文献	特になし					
[備考]						

科目名 (英語名)	社会的養護内容 (Contents)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(すずきひろみつ) 鈴木弘充	専任・非常勤
			233255			専任
1 単位	開講期	前期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等]						
1年次の社会的養護の教科書を読み直すこと。また、新聞、ニュース等の児童福祉関連情報に関心を持つこと。						
[授業の具体的到達目標]						
社会的養護に基づいて、現代の養護問題及び養護実践の実情を理解すると共に、保育士として、より良い支援のあり方の基本を学習する。また、社会で生じた事件や事象について必要に応じて議論し、今後の社会的養護の内容や質、方向性について理解を深める。						
[授業の概要]						
主に、施設での支援の健全性を保持するには、どのような視点に着目する必要があるのかについて、利用者や家族の視点から学ぶ。						
[授業計画]						[担当]
1 回	オリエンテーション					
2 回	社会的養護の現状と課題(1年次の復習)					
3 回	社会的養護の基本的視点					
4 回	社会的養護を進める際の基本的方向性					
5 回	施設養護における支援の実際					
6 回	児童福祉施設・機関における支援の実際					
7 回	社会的養護の実践を行うための専門的技術					
8 回	社会的養護を受け持つ施設の役割と運営管理の在り方					
9 回	施設実習から見た社会的養護の実際					
10 回	今後の展望と課題					
11 回	事例検討①					
12 回	事例検討②					
13 回	事例検討③					
14 回	事例検討④					
15 回	まとめ					
試験等	レポート、小テスト					
[成績評価]						
授業態度 20%、授業中の小テスト 2 回 80%の比率で総合的に評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容]						
1年次の「社会福祉」「児童家庭支援論」「社会的養護」のテキストを復習すること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	子どもの生活を支える社会的養護内容(最新版)	小野澤 昇 他編著	ミネルヴァ書房			
参考文献	特になし					
[備考]						
・上記以外の担当者(田中利則) <small>たなかとしのり</small> ・質問等は、オフィスアワーで対応します(時間は、研究室扉付近に掲示)。						

科目名 (英語名)	表現の指導 (音体) EXPRESSION OF MUSIC AND PERFORMANCE		科目コード 233260	(ふりがな) 担当者	おおの めぐみ 大野 恵美	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 動きやすい服装で受講し、筆記用具および上履きを用意して下さい。						
[授業の具体的到達目標] 幼児の音楽と体育的活動における表現の空間創りを目的とします。 指導計画とその立案、展開法を学び、柔軟な表現活動を体得することにより、保育者としての豊かな指導上の発想、想像力を高め、幼児の発達・発育に応じた指導のあり方について学ぶことができます。						
[授業の概要] 授業形態はA・Bクラスに分かれ、各グループで指導案を立案するとともに、その演習方法について解説を行います。「音楽」の題材を中心に扱う回と、「体育」の題材を中心に扱う回があり、内容は隔週で展開します。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス：「保育における表現のあり方」について					大野・多胡
2 回	「指導案の作成」について：音楽・体育それぞれの内容についてグループに分かれて講義を受ける					大野・多胡
3 回	音楽①「こどもの歌」春・夏の題材を考察					大野・多胡
4 回	体育① 身体表現あそび① 春の題材を考察					大野・多胡
5 回	音楽②「こどもの歌」秋・冬の題材を考察					大野・多胡
6 回	体育② 身体表現あそび② 梅雨の題材を考察					大野・多胡
7 回	音楽③「楽器であそぶ」楽器（手作り楽器・効果音）を使つての表現力					大野・多胡
8 回	体育③ 身体表現あそび③ 夏の題材を考察					大野・多胡
9 回	音楽④「楽器であそぶ」リズムと身体表現など遊びへの展開法					大野・多胡
10 回	体育④ 身体表現あそび④ 日常生活から生まれる題材、ジェスチャーゲームを考察					大野・多胡
11 回	「出張公演」グループワーク 目的理解・テーマについてGW					大野・多胡
12 回	音楽⑤「劇あそび」発想豊かな柔軟な表現法					大野・多胡
13 回	体育⑤ 身体表現あそび⑤ 新聞紙を使つて					大野・多胡
14 回	音楽⑥「劇あそび」童話の世界の表現法					大野・多胡
15 回	体育⑥ 身体表現あそび⑥ 空想世界の題材を考察					大野・多胡
試験等	レポート・課題・ノート提出					大野・多胡
[成績評価] 指導案レポートおよび実技課題、講義内容を明記し、考察・所見を記した授業内容のノート提出で評価を行います。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 予習：指導案の作成は個別指導を行いますので、必ず教員のアポイントを取りましょう。 復習：授業で行った内容は、回ごとにノートにまとめ実習に役立てましょう。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	たのしい音楽あそび	小林 美実	あすなろ出版			
	うきうきわくわく身体表現あそび	高野 牧子 編	同文書院			
[備考] 上記以外の担当者：多胡綾花（専任）						

科目名 (英語名)	表現の指導 (造形) EXPRESSION OF PLASTIC ART		科目コード 233265	(ふりがな) 担当者	おおつかしゅうへい 大塚習平	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	前期	授業方法	実習・演習	
[履修条件、準備等] 「造形」を修得している事。 画鉛筆(4B) 色鉛筆 ネームペン 定規 はさみ カッターナイフ スティックのり ステープラ 汚れても構わない服装、靴						
[授業の具体的到達目標] ・保育現場に直結する創作活動ができる ・様々な素材について、体験を通して理解する事ができる ・様々な技法を用いて制作する事ができる						
[授業の概要] 保育現場で展開される創作活動について、模擬授業を通してお互いに学んでいく。「造形」で学んだ基本的内容や、知識・技術を用いながら応用していくことで、実習に向け、より深い学びに結び付ける事をねらいとしている。 ※過去の模擬授業における資料をファイルしているので、自主的に教材研究する事ができます。						
[授業計画]						[担当]
1回	仮想幼稚園設定(グループワーク) 振り返りアンケート					※1
2回	模擬授業①					
3回	模擬授業②					
4回	模擬授業③					
5回	模擬授業④					
6回	模擬授業⑤					
7回	模擬授業⑥					
8回	教育実習振り返り 幼稚園実習レポート作成 ファイルのまとめ					
9回	パネルシアター制作① テーマ設置 パネルボード切り取り					
10回	パネルシアター制作② 下描き パネルボード接着					
11回	パネルシアター制作③ 着色 パネル布切り取り					
12回	パネルシアター制作④ 着色 パネル布接着					
13回	パネルシアター制作⑤ 切り抜き					
14回	パネルシアター制作⑥ まとめ					
15回	作品撮影 スケッチブックまとめ					
試験等	スケッチブックの提出					
[成績評価] ・「関心・意欲・態度」40% 「作品の完成度・丁寧さ」30% 「アイデア・独創性」30%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] ・授業時間外であっても「教室使用願い」を提出する事により、教室や用具を使用する事ができます。 ・「模擬授業」の指導案作成や教材研究は、「教育実習指導」の補講に充てています。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	保育をひらく造形表現	槇 英子	萌文書林			
参考文献	造形表現	花篤實・岡田敬吾	三晃書房			
	楽しい造形表現	子どもの造形表現研究会	圭文社			
[備考] ・上記以外の担当者(非常勤講師 村上弘人) ※1 授業では個別指導ができるよう、2名の教員が協力して指導します。						

科目名 (英語名)	児童文化 Children's Culture		科目コード 233270	(ふりがな) 担当者	さねよしあきこ 實吉 明子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 授業は、基本的には講義を中心に進めますが、選択した受講生数に合わせてできるかぎり演習形式も取り入れ、保育者としての実践力養成に資する予定です。五感を働かせて主体的に授業に参加すると、有意義に学ぶことでしょう。6月の教育実習にも配慮し、各自の経験や問題意識を生かして学びます。						
[授業の具体的到達目標] まずは、各自の幼少期体験を思い出すことから始め、現代社会の中で生きる子どもたちの現状に目を向けつつ、文化的に豊かな生活を営むことについて考えます。さらに、保育文化や児童文化財についての知識を深め、子どもに寄り添いながら共に文化的な生活を構築できる知識・技能・感性を身に付けます。						
[授業の概要] 児童文化について基礎的な学習をし、保育者としての視野を広め、保育技能を高めましょう。基本的なスケジュールは下記のとおりですが、受講人数に合わせて授業方法・形態を吟味しながら進め、体験的な学びの場を目指します。また、各自のイメージが広がるよう留意し、各回、配布資料・視聴覚教材 (DVD 等) に基づいて学びます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス：幼少期体験を振り返り、児童とは、文化とは何かを広く捉え、関心を持つ					實吉
2回	保育と児童文化とは何か、保育における感性の重要性に気付く					實吉
3回	幼少期の体験を遊びを通して振り返り、実践を通して考える					實吉
4回	子どもと遊び①－社会と子どもについて、昭和30年代の子どもの様子を通して考える					實吉
5回	子どもと遊び②－児童文化の歴史について、砂場遊びを通して考える					實吉
6回	子どもと遊び③－遊びの要素、児童文化と社会（歴史、児童憲章、現代社会）について知る					實吉
7回	教育実習・保育実習等、現場から児童文化を学ぶ（グループディスカッション・発表）					實吉
8回	保育内容と児童文化 ① 保育者の文化を考察する					實吉
9回	保育内容と児童文化 ② 子ども主体の保育を考察する					實吉
10回	保育内容と児童文化 ③ 子どもの育ちと「行事」「通過儀礼」を考察する					實吉
11回	児童文化財①－絵本・幼年童話・児童文学を知る					實吉
12回	児童文化財②－紙芝居・人形劇・影絵・ペープサート・エプロンシアター等を知る					實吉
13回	児童文化財③－昔話・わらべうた・伝承遊び・玩具を知る					實吉
14回	児童文化施設と児童文化運動を知る					實吉
15回	質疑応答、まとめ（質疑を通して、学習を振り返る）					實吉
試験等	レポート					實吉
[成績評価] 総合評価（受講態度 20%・授業内提出物・発表 30%・レポート 50%）						
[準備学習（予習・復習等）の内容] テキストは用いないので、配布資料を各自ファイルし、次回の授業に臨み、卒業後の保育実践に備えること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	新 保育と児童文化	森上史朗 編	学術図書出版			
	新版 児童文化	皆川美恵子・武田京子 編著	みなみ書房			
	保育実技	久富陽子 編	萌文書林			
[備考] 学科全体の補講日程（6月教育実習期間分の補充）に合わせて、授業計画の順序を入れ替える場合があります。						

科目名 (英語名)	教育方法論 Teaching Methods		科目コード 233275	(ふりがな) 担当者	こなか もとこ 古 仲 素 子	専任・非常勤 非常勤
	2 単位	開講期	前期	授業方法	講義／演習	
[履修条件、準備等] 特になし。						
[授業の具体的到達目標] 教育方法について様々な視点から検討することを通して、教育・保育現場における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践について理解することができるようになる。						
[授業の概要] 学習のメカニズムや教える際のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。教育・保育現場において教師や子どもがどのように生きているのか、教師の立場から子どもの学習に寄り添うことの大切さについて学ぶ。						
[授業計画]						[担当]
1 回	オリエンテーション—教育方法とは					
2 回	西洋における教育思想と教育方法の歴史					
3 回	日本における教育思想と教育方法の歴史					
4 回	子どもは何を学ぶか					
5 回	学習とは何か					
6 回	学力をどのように高めるか					
7 回	授業をどのようにデザインするか					
8 回	授業におけるコミュニケーション					
9 回	学び合うコミュニティづくり					
10 回	何をどう評価するのか					
11 回	教育とメディアの現状・メディアに関する理論					
12 回	教材の開発・教育へのメディア活用					
13 回	問題解決学習・体験的学習のあり方					
14 回	教師の学びと成長					
15 回	まとめ					
試験等	論述試験					
[成績評価] 学期末試験 70%、毎回のレスポンスシート 30%の比率で総合的に評価する。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 予習：特になし。 復習：配布されたプリントをもう一度見直し、興味を持った事項に関して調べるなどして理解を深める。						
	書 名	著 者	出 版 社			
テキスト	特に使用しない。					
参考文献	新しい時代の教育方法	田中耕治ほか	有斐閣			
[備考] ・メールで質問を受け付けます。メールアドレス：sax911love74@yahoo.co.jp ・資料映像を観て感想を書いてもらうことがあります。						

科目名 (英語名)	幼児相談論 (Counseling for Children)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(かめい みやこ) 亀井 美弥子	専任・非常勤
			233280			専任
2単位	開講期	後期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] すでに授業その他で学んだ子どもの心理的発達について理解していることが前提となる。また、グループ・ワークやワークに積極的に取り組む姿勢が必要である。						
[授業の具体的到達目標] 幼児期の家庭を支援するための知識と技術を理解する。グループワークやワークを行うことで、考える力とともにそれらをまとめて書く力も養う。						
[授業の概要] 幼児教育現場における相談の実際を学ぶ。またその背景として現代の子育ての課題にも触れる。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	幼児教育現場における相談とは①					
3回	幼児教育現場における相談とは②					
4回	幼児教育現場における相談とは③					
5回	子どもの発達と家族の発達①					
6回	子どもの発達と家族の発達②					
7回	虐待の防止と支援①					
8回	虐待の防止と支援②					
9回	保護者からの相談①					
10回	保護者からの相談①					
11回	保護者からの相談①					
12回	異文化児の理解と対応①					
13回	異文化児の理解と対応①					
14回	就学に向ける					
15回	まとめ					
試験等						
[成績評価] レポートと課題 80%、授業態度 20%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 日ごろからメディアを通じて子どものニュースに注目し、授業内容でまとめた内容と照らして理解に努めること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献	特になし					
[備考]						

科目名 (英語名)	保育相談支援 (Consultation and Support for Child Care)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(てるい ゆうこ) 照井 裕子	専任・非常勤
			233285			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	講義及び演習		
[履修条件、準備等] 各種ワークを授業内で行うので、その利点を生かせるよう積極的に授業に参加すること。						
[授業の具体的到達目標] 保育相談支援の意義を理解し、保育者が行う保護者に対する相談活動及び、支援の内容と方法について学びを深める。						
[授業の概要] 保育相談の実際について、事例を紹介しながら解説を行う。また、受講者が保育者の行う保護者に対する相談支援の実際をより具体的にイメージしながら学びが深められるよう、事例に基づいて支援の可能性について検討したり、受講者同士でディスカッションを行うワークを取り入れ授業を進める。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス					
2 回	保育相談支援のめざすもの					
3 回	保育相談支援の原則					
4 回	保育相談支援の技術と留意点①					
5 回	保育相談支援の技術と留意点②					
6 回	保育相談支援の取り組みの実際					
7 回	保育相談支援の進め方①					
8 回	保育相談支援の進め方②					
9 回	他機関との連携					
10 回	他職種の専門性を知る					
11 回	連絡帳を通じた保育相談支援①					
12 回	連絡帳を通じた保育相談支援②					
13 回	事例検討からの学び①					
14 回	事例検討からの学び②					
15 回	事例検討からの学び③					
試験等	課題の提出					
[成績評価] 授業内の提出物 40%、課題 60%の比率で総合的に評価する。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 授業内容に応じ必要時に事前に資料等を配布する。案内があった際は資料を読んだ上で授業に臨むこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献	「保護者のシグナル」 観る聴く 応える-保育者のためのコミュニ ケーション・スキル	掛札逸美・加藤絵美	ぎょうせい			
[備考] オフィスアワーを設定する。時間等は研究室前に掲示するので確認の上、来室すること。 授業の進行は主にパワーポイントにより行う。また、授業内容によりビデオ視聴によるワークを行う。 課題の提出には学内 E-learning システム Moodle を使用する。						

科目名 (英語名)	造形Ⅱ PLASTIC ART Ⅱ		科目コード 233300	(ふりがな) 担当者 大塚習平	おおつかしゅうへい 大塚習平	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	後期	授業方法	実習・演習	
[履修条件、準備等] 「造形」を履修している事 画鉛筆(4B) 色鉛筆(12色) ネームペン はさみ カッターナイフ スティックのり ステープラ 汚れても構わない服装・靴						
[授業の具体的到達目標] ・素材や用具について用途に応じて使い分けができる ・計画を立て、時間を効率的に活用する事ができる ・制作したものをを使って、教育活動に活かすことができる						
[授業の概要] 保育現場で必要となる造形的な知識・技術・能力を応用した内容で、様々な素材や用具を使用しながら、 体験を通して学んでいく。 ※制作状況に応じて、順序や時間数が変更になる時があります。 ※過去の作品をファイルしてありますので、より具体的な教材研究ができます。 ※あゆのこ保育園で教材発表(あゆのこ15分ステージ)の場を設定しております。						
[授業計画]						[担当]
1回	前半「保育環境」「保育教材」「美術制作」より選択し、計画を立てる					※1
2回	課題①「日めくりカレンダー」原案作成					
3回	課題① ベニヤ版切削 コルクボード接着					
4回	課題① 背面補強材接着					
5回	課題① ヨート取り付け					
6回	課題①「月、日、曜日、天気」制作					
7回	課題① 写真撮影 振り返りシート作成・提出					
8回	課題②「制作+表現」原案作成					
9回	課題② 素材収集					
10回	課題② 原画作成					
11回	課題② 切取り					
12回	課題② 縫合					
13回	課題② 切取り					
14回	課題② 縫合					
15回	課題② 写真撮影 振り返りシート作成・提出					
試験等	あゆのこ15分ステージ					
[成績評価] 関心・意欲・態度 30% 作品の完成度・丁寧さ 50% アイデア・独創性 10% ステージ発表 10%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 授業外でも「教室使用願い」を申請すれば、131教室で自主制作できます。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	保育をひらく造形表現	榎 英子	萌林書店			
参考文献	造形表現	花篤實・岡田敬吾	三晃書房			
	楽しい造形表現	子どもの造形表現研究会	圭文社			
[備考] 上記以外の担当者(非常勤講師 村上弘人) ※1 授業では個別対応できるよう、2名の教員が協力して指導します。						

科目名 (英語名)	音楽Ⅲ MUSIC Ⅲ		科目コード	(ふりがな) 担当者	おおの めぐみ 大野 恵美	専任・非常勤
			233325			専任
2単位	開講期	通年	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 1年の「音楽」終了時に提示された課題(童謡の弾き歌い、ピアノ曲)を準備し、レッスンを受けてください。						
[授業の具体的到達目標] 保育現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き歌いを習得することができます。 教育実習、また就職に向けて個々の力を高め、子どもと音楽を共有していくあり方について学びます						
[授業の概要] 幼児教育者として必要な音楽の知識、技能を現場で役立てる方法を習得し、応用力を身につけます。 各グループを2グループにわけ、指導者8名がローテーションを組んで個人レッスンを行います。 各自のレベルに合わせてレポーターを広げ、保育での実践力を習得しましょう。						
[授業計画]			[担当]	[授業計画]		[担当]
1回	1年時の復習		全教員	16回	夏季休暇中の課題復習	全教員
2回	〃		全教員	17回	〃	全教員
3回	教育実習の課題に取り組む		全教員	18回	〃	全教員
4回	〃		全教員	19回	〃	全教員
5回	〃		全教員	20回	就職試験準備と対策	全教員
6回	〃		全教員	21回	〃	全教員
7回	〃		全教員	22回	〃	全教員
8回	実習事後指導		全教員	23回	〃	全教員
9回	〃		全教員	24回	〃	全教員
10回	就職試験課題の準備		全教員	25回	現場対応の準備	全教員
11回	〃		全教員	26回	〃	全教員
12回	〃		全教員	27回	〃	全教員
13回	〃 夏季休暇中のトレーニングについて		全教員	28回	〃	全教員
14回	〃		全教員	29回	〃	全教員
15回	前期合格曲復習		全教員	30回	後期合格曲復習	全教員
試験等	発表会		全教員	試験等	発表会、レポート等	全教員
[成績評価] ・通年で童謡10曲、ピアノ曲2曲の合格が単位取得の最低基準です。 ・予習復習等の自主学習態度(50%) ・試験の評価:発表会形式で、自由曲を演奏します(50%)						
[準備学習(予習・復習等)の内容] ピアノ経験は個々に異なります。習得したい曲目の目標をしっかりと設定し、計画的・自主的に練習を重ねより良いレッスンを受講するように予習と復習を行いましょ。						
	書名		著者		出版社	
テキスト	ポケットいっぱいのおうた		鈴木恵津子、富田英也編著		教育芸術社	
	子どもと歌おう		カワイ音楽教室		カワイ出版	
参考文献	やさしいソナチネ・アルバム1		森本琢郎・池田恭子編著		ドレミ楽譜出版	
	四期学習法によるピアノ曲集1~4		青木靖子 他編著		ドレミ楽譜出版	
[備考] 上記以外の担当者 <small>あかいひろみ</small> 赤井裕美(専任) <small>ながたたくし</small> 永田孝志・ <small>きのしたひろこ</small> 木下裕子・ <small>たがのぶこ</small> 多賀伸子・ <small>たきざわまゆみ</small> 滝沢真弓・ <small>くろだのりこ</small> 黒田紀子・ <small>ねぎしめぐみ</small> 根岸恵(以上非常勤講師)						

科目名 (英語名)	保育・教職実践演習(幼稚園) (Childcare Education Practicum)		科目コード	(ふりがな) 担 当 者	(すずきひろみつ) 鈴木弘充	専任・非常勤
			233400			専任
2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] これまでの履修科目について、何を学んできたのかを振り返っておく。						
[授業の具体的到達目標] これまでの学習で身につけてきた専門知識・技能を確認し、さらに以下の資質について確認、補完する。 ①保育者としての使命感や責任感、②社会性や対人関係能力、③保育内容の指導とクラス運営能力、④幼児理解と対応の能力						
[授業の概要] 保育者として必要な資質・能力を確認、補完するために、これまでの学習内容を振り返り、演習を中心に、講義グループ討論、模擬授業等を行う。						
[授業計画]						[担当]
1回	学習の振り返りー各自の履修状況をもとに					鈴木
2回	外部講師講演①					鈴木
3回	教職の意義					野口
4回	教職の役割					野口
5回	私が目指す教師像					野口
6回	職務における人間関係					高木
7回	職務に必要な人間関係の構築					高木
8回	保護者や地域との関わり					高木
9回	保育内容とクラス運営①指導案					照井
10回	保育内容とクラス運営②模擬授業					照井
11回	保育内容とクラス運営③グループ討論					照井
12回	幼児の個別的な理解					鈴木
13回	幼児への保育者としての関わり					鈴木
14回	園児間の人間関係とクラス運営					鈴木
15回	外部講師講演②					鈴木
試験等	発表・レポート等					
[成績評価] 授業への取り組み(50%)、発表、提出物等(50%)をもとに、保育者としての基本的な資質・能力について評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 各授業の前に、該当するテーマについて、これまでの学習内容を振り返り、自分の課題を考える。						
	書	名	著	者	出 版 社	
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 上記以外の担当者(専任:高木友子、照井裕子、非常勤:野口周一) 質問等は、各担当のオフィスアワーを利用すること						

科目名 (英語名)	教育実習 PLACTICAL TEACHING		科目コード 263500	(ふりがな) 担当者	おおつかしゅうへい 大塚習平	専任・非常勤 専任
	4単位	開講期	前期	授業方法	実習	
[履修条件、準備等] 1年次「保育実習」を履修していること 「教育実習指導」を受講していること						
[授業の具体的到達目標] ・これまで学習してきた事を実践の場に適応しながら、自身の内に具体化し、さらに新しい学習課題を見出す ・子どもとの触れ合いを通して、こどもへの理解を深める ・保育者の役割と職務内容を理解し、専門職としての使命感を感得する ・望ましい人間関係（保育者同士、保育者と保護者の関係など）のあり方を学ぶ ・大きく変化する社会の中にある幼稚園の実態について学ぶ						
[授業の概要] 配属された実習園のカリキュラムに従う 4週間の実習を通して、本学で学習した理論および実技の内容を有機的に統合し、実践的に試行する 現場での実践的な能力を身につける						
[授業計画]						[担当]
1回	実習期間：平成28年6/6（月）～7/4（土）					※1
2回	実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら（報告・連絡・相談）、積極的に取り組む					
3回						
4回						
5回						
6回						
7回						
8回						
9回						
10回						
11回						
12回						
13回						
14回						
15回						
試験等						
[成績評価] 「実習園における実習状況」30%、「実習記録」40%、「実習園の評価」30% を総合的に評価する						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 実習園の指導に従いながら、積極的に取り組むようにする						
	書名	著者	出版社			
テキスト	幼稚園教育要領ハンドブック	監修 無藤隆	学習研究社			
参考文献						
[備考] 教育実習担当教員： 多胡綾花（たご あやか） 赤井裕美（あかい ひろみ） ※1 教育実習中の巡回は、実習担当教員を軸として巡回エリアを割り当て、学科教員全員で取り組みます。						

科目名 (英語名)	教育実習指導 GUIDANCE OF PLACTICAL TEACHING		科目コード 263505	(ふりがな) 担 当 者	(おおつかしゅうへい) 大塚習平	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 原則として1年次「保育実習」を履修していること						
[授業の具体的到達目標] 教育実習の学びを深めるべく事前準備をする 実習での学びを共有する 各自の学習課題を明確にする						
[授業の概要] 実習に必要な心構えや知識、提出書類などについて準備していく 現場で活躍している先輩教諭のお話を聴講したりビデオ講習を通して現場の雰囲気を感じ取る 事後の振り返りや発表、個別指導を通して次のステップへの準備に入る						
[授業計画]						[担当]
1 回	教育実習の概要 希望調査					※1
2 回	実習に向けて 担当者紹介 実習園の確認 書類作成					
3 回	保育実習から教育実習へ 事前・事後指導の流れ 書類作成					
4 回	幼稚園と保育所の比較 「しおり」に学ぶ教育実習					
5 回	実習日誌の説明 (園の概要 スケジュール) 教育実習目標設定					
6 回	実習日誌の説明 (1日の記録と考察) 先輩からのメッセージ					
7 回	指導案指導 (部分実習 責任実習) ビデオ講習① レポート					
8 回	卒業生講話 身だしなみ 健康維持について					
9 回	事後手続き (お礼状、日誌、ラウンジ) について					
10 回	振り返り チェックリストによる自己評価					
11 回	振り返り 振り返りグループワーク					
12 回	保育ボランティアについて					
13 回	振り返り 実習園における反省と評価					
14 回	振り返り 実習で学んだことの報告会					
15 回	後輩へ向けて メッセージ作成 個別面談					
試験等						
[成績評価] 「関心・意欲・態度」50% 「レポートなどの提出物」50%						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 前期・後期を問わず取り組んだ内容 (希望調査や個別面談など) も含む						
	書 名	著 者	出 版 社			
テキスト	幼稚園教育要領ハンドブック	監修 無藤隆	学習研究社			
参考文献						
[備考] 教育実習担当教員：多胡綾花 (たご あやか) 赤井裕美 (あかい ひろみ) ※1 実習事前・事後指導は、毎時間、3名の教員が全習体制で行います。						

科目名 (英語名)	保育実習Ⅱ Practical NusingⅡ		科目コード 233525	(ふりがな) 担当者	(たかき ゆうこ) 高木 友子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	実習	
[履修条件、準備等] 心身が健康で安定していること。子どもに対して愛情を持っていること。「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習指導Ⅱ」を始めとする保育士資格取得科目を良好な授業態度で履修していること。保育のための努力を惜しまないこと。学校行事などにも積極的に参加できていること。実習に積極的に取り組めること。						
[授業の具体的到達目標] 「保育実習Ⅰ(保育所)」の学びを元に、さらに実践的な部分実習、責任実習を立案・実践し、保育所と保育士の職務について理解を深め、保育士としての実践力を身に着ける。						
[授業の概要] 各保育所において実際、かつ実践的に保育を学習する。						
[授業計画] 実習段階 第3段階：部分実習 (実習園の保育方針・計画に沿って、指導保育士の指導の下で部分実習を行う。) 第4段階：責任実習 (実習園の保育方針・計画に沿って、指導保育士の指導の下で、自ら指導計画を作成し、実践し、保育士としての総合的実践力と養う。)  実習期間 平成28年8月25日(木)～9月7日(水)(予定。内、原則11日以上) *やむを得ない理由で欠勤した場合、実習期間を延長し、原則11日以上の実習を行う。 *別途、事前オリエンテーションや事後の書類の受け渡し日などが設けられる。						[担当]
[成績評価] 実習参加態度と実習園からの評価を元に実習記録や事後指導の評価を加味して総合的に評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 保育実習指導Ⅱに沿って準備を進める。その他専門科目の学習を生かす。実習ラウンジを利用し、事前の情報収集や事後の省察を行う。日誌や実習生のための自己評価チェックリスト、事後指導を利用して反省を行い、さらなる課題を見出す。						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献	自己評価チェックリスト		萌文書林			
[備考] 上記以外の担当教員(實吉明子、照井裕子、小笠原大輔)						

科目名 (英語名)	保育実習指導Ⅱ (Guidance of Practical Nursing Ⅱ)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(たかき ゆうこ) 高木 友子	専任・非常勤
			233530			専任
1単位	開講期	前期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 自ら課題と目的意識をもって実習準備を行うこと。提出物など時間厳守。 保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）を原則履修済のこと。						
[授業の具体的到達目標] 保育実習Ⅰ（保育所）について実習園からの評価と教員の指導の下に省察し、保育実習Ⅱに向けての課題を見出す。同時に保育実習Ⅱに向けて具体的な準備を行う。実習Ⅱ履修後は実習園からの評価と教員の指導の下に保育を省察し、今後の課題を見出し、さらなる学習につなげる。						
[授業の概要] 保育実習Ⅰ（保育所）について実習園からの評価と教員の指導の下に省察し、保育実習Ⅱに向けての課題を見出す。同時に保育実習Ⅱに向けて具体的な準備を行う。実習Ⅱ履修後は実習園からの評価と教員の指導の下に保育を省察し、今後の課題を見出し、さらなる学習につなげる。						
[授業計画]						[担当]
1回	実習Ⅰ振り返り					
2回	実習Ⅰ振り返り					
3回	実習Ⅰ振り返り					
4回	実習Ⅰ振り返り					
5回	実習Ⅰ振り返り					
6回	実習Ⅰ振り返り					
7回	実習Ⅰ振り返り					
8回	実習書類作成					
9回	未満児指導案作成の考え方					
10回	課題と抱負					
11回	指導案へのアドバイス					
12回	実習Ⅱ振り返り					
13回	実習Ⅱ振り返り					
14回	実習Ⅱ振り返り					
15回	実習Ⅱ振り返り					
試験等						
[成績評価] 保育実習Ⅱの際の実習園からの評価を下に、提出物の状況や受講態度を加味して評価する。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 必要に応じて課外も自主的に実習準備を行うこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	実習生のための自己評価チェックリスト		萌文書林			
参考文献	幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針		チャイルド本社			
	実習のヒントとアイデア	鈴木みゆき	萌文書林			
[備考] 上記以外の教員（實吉明子・照井裕子・小笠原大輔）						

科目名 (英語名)	保育実習Ⅲ Practical Nursing Ⅲ		科目コード 233535	(ふりがな) 担当者	たなか としのり 田中 利則	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	実習	
[履修条件、準備等] 1年次の保育実習Ⅰ（施設）を履修済みであることが前提とします。 一層の知識や情報を習得するために見識を深めてほしい。						
[授業の具体的到達目標] これまで習得した教科全体の知識・技能を総合的に実践する応用能力を身につける。 実習を行う施設以外の種別の施設も学習を行うので保育実習Ⅰの経験を活かし、一層の技術や知識を身につける。						
[授業の概要] 児童福祉施設などの実習を通して、施設や児童、利用者の理解を深め、保育の実践的な能力を身に付ける。						
[授業計画]						[担当]
1回	1. 期間					
2回	原則として、2年次8月中。または、保育実習Ⅱの期間					
3回						
4回	2. 実習施設					
5回	児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令に基づき設置されて					
6回	いる施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所は除く）。					
7回						
8回	3. 保育実習Ⅲの主な内容					
9回	前期8回は保育実習Ⅰの復習を行い、一層の知識や技術の向上を図る。					
10回	後期7回は保育実習後の振り返りと今後の課題について学習を行う。					
11回						
12回						
13回						
14回						
15回						
試験等						
[成績評価] ・実習評価票、実習日誌、事後報告を総合して評価する。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] ・自分が学びたい施設を事前に見学を行ったり、情報を収集しておいたりしておくことを期待したい。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	必要に応じて学生と相談して					
	決める。					
参考文献	特になし					
[備考] ・実習後指導にスーパービジョンを行い対象学生が実習へ向けてモチベーションを高められるように努めます。						

科目名 (英語名)	保育実習指導Ⅲ Guidance of Practical Nursing		科目コード 233540	(ふりがな) 担当者	たなか としのり 田中 利則	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 保育実習Ⅰ（施設）を履修していること						
[授業の具体的到達目標] 実習準備を充分に行い、実習後にその経験が実習に生かせるようになる。						
[授業の概要] 保育実習Ⅰの経験を活かして実習準備と実習後にまとめ・反省を行い、理解を深める。						
[授業計画]						[担当]
1回	保育実習Ⅲの目的と内容					
2回	福祉施設の理解1～ 社会的役割					
3回	福祉施設の理解2～ その種別と概要					
4回	実習施設の検討					
5回	実習生調査票					
6回	実習日誌について					
7回	実習計画について					
8回	実習計画の検討					
9回	オリエンテーションについて					
10回	細菌検査と健康診断書について					
11回	事前学習について					
12回	実習報告書について					
13回	実習中の注意事項					
14回	実習報告					
15回	まとめと反省					
試験等	提出物					
[成績評価] ・実習指導中の態度、実習に関する手続きや必要書類の提出状況によって評価する。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] ・自分が実習に行きたい施設関連の情報を理解しておいていただきたい。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	必要において学生と相談して決める。					
参考文献	特になし					
[備考] 保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと社会的養護の復習を行います。						

科目名 (英語名)	ゼミナール seminar		科目コード 233600	(ふりがな) 担当者	たなか としのり 田中 利則	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	通年	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] 近年の子どもの状況についてのデータや資料、文献などに目を通して欲しい。また、グループ活動に主体的に参加できる学生に履修していただきたい。						
[授業の具体的到達目標] ゼミナールでは、保育士・幼稚園教諭と子どもの関係や保育士と家族の関係、保育士同士の関係などのテーマに絞って研究を行う。社会人となり、研究活動ができるように、基礎から研究の仕上がりまでの一連の流れを身に付けることを目標とする。						
[授業の概要] 基本的には5歳児、あるいは家庭や地域社会を対象として、遊びや生活について考察し、その中から研究テーマを探り出し、調査や文献研究などを行う。ゼミナールに参加する学生は夏休みに1日か、2日、必ず補講を行うのでその心積もりをしていてください。						
[授業計画]		[担当]	[授業計画]		[担当]	
1回	前期オリエンテーション		16回	後期オリエンテーション		
2回	資料・文献研究の基礎①		17回	研究の組み立て①		
3回	資料・文献研究の基礎②		18回	研究の組み立て②		
4回	資料・文献研究の基礎③		19回	研究内容の決定		
5回	資料・文献研究の基礎④		20回	研究①		
6回	調査研究の基礎①		21回	研究②		
7回	調査研究の基礎②		22回	研究③		
8回	調査研究の基礎③		23回	研究④		
9回	先行研究の概観①		24回	研究④		
10回	先行研究の概観②		25回	研究原稿執筆①		
11回	先行研究の概観③		26回	研究原稿執筆②		
12回	研究の方向性の模索①		27回	研究原稿執筆③		
13回	研究の方向性の模索②		28回	研究原稿執筆④		
14回	研究の方向性の模索③		29回	研究発表会準備①		
15回	まとめ		30回	研究発表会準備②		
試験等	研究計画作成		試験等	研究発表会		
[成績評価] ・研究会参加態度50%・レジュメ発表および研究発表会の内容50% (総合評価)						
[準備学習(予習・復習等)の内容] ・できるだけ数多く、関心領域の研究論文や文献に目を通しておくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	学生と相談の上で随時採用する					
参考文献	特になし					
[備考] 近くの公園へ行き、さまざまな家族と交流する機会をもち、丁寧な観察や研究を継続的に行います。						

科目名 (英語名)	ゼミナール		科目コード	(ふりがな) 担当者	(すずきひろみつ) 鈴木弘充	専任・非常勤
			233600			専任
2単位	開講期	通年	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 障害児・者に関心を持つこと						
[授業の具体的到達目標] 疑問に思ったこと、知りたいことについて、情報を収集・分析する能力を身につけ、さらにそれを分かりやすくまとめて、発表する能力を高める。						
[授業の概要] 障害児・者やその社会生活の実態や課題について、文献・調査研究を行い、発表や討論によって理解や問題意識を深める。						
[授業計画]		[担当]	[授業計画]		[担当]	
1回	先行研究聴講①		16回	研究方法の検討		
2回	先行研究聴講②		17回	資料収集法		
3回	障害児・者の現状について		18回	資料収集と分析		
4回	障害児・者の現状について		19回	資料収集と分析		
5回	障害児・者の現状について		20回	資料収集と分析		
6回	障害児・者の現状について		21回	資料収集と分析		
7回	障害児・者の現状について		22回	資料収集と分析		
8回	障害児・者の現状について		23回	資料収集と分析		
9回	障害児・者の現状について		24回	資料収集と分析		
10回	障害児・者の現状について		25回	中間発表		
11回	障害児・者の現状について		26回	まとめ・発表準備		
12回	障害児・者の現状について		27回	まとめ・発表準備		
13回	障害児・者の現状について		28回	まとめ・発表準備		
14回	障害児・者の現状について		29回	発表・討論		
15回	テーマの検討		30回	研究発表①		
試験等	研究計画の発表		試験等	研究発表②		
[成績評価] 授業への取り組み(40%)、研究内容(30%)や発表内容(30%)により、総合的に評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 日頃から、障害児・者に関する新聞記事やニュース等に関心を持ち、読む(見る)よう心掛ける。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 質問・相談等は、オフィスアワーを利用すること(時間は、研究室扉付近に掲示)。						

科目名 (英語名)	ゼミナール Seminar		科目コード 233600	(ふりがな) 担当者	(さねよしあきこ) 實吉明子	専任・非常勤 専任	
	2単位	開講期	通年	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 主体的に授業に取り組むと共に、授業以外にも相応の自主的な学習が必要となります。また、共同作業に際しては責任を持って臨み、学年末には全員が研究レポートおよび振り返りシートを作成・提出することとします。							
[授業の具体的到達目標] 研究的に保育を行う姿勢を養成し、卒業後の現場での保育活動に備えることを目標とします。具体的には、グループ研究を行い、最終的には研究成果をレポートにまとめます。また、卒業研究発表会に向けて、口頭発表練習・質疑応答練習を全員で行い、発表力・質問力を高めます。							
[授業の概要] 身近な問題意識を土台に、児童文化・保育教材等について探求します。流れとしては、全員で基礎的文献を講読することからスタートし、各自の問題意識を明確にします。各々自由にテーマを設定しグループを組み、夏休み中に研究を進め、後期に中間発表を経て研究レポートを作成すると共に、1月の卒業研究発表会に向けて学習を深めます。							
[授業計画]			[担当]	[授業計画]		[担当]	
1回	先行研究聴講する		實吉	16回	夏休みの活動報告		實吉
2回	先行研究聴講する		實吉	17回	個別(グループまたは個人)研究		實吉
3回	基礎的な文献講読する		實吉	18回	個別(グループまたは個人)研究		實吉
4回	図書館の利用について知る		實吉	19回	個別(グループまたは個人)研究		實吉
5回	図書館を利用し文献検索を実践する		實吉	20回	個別(グループまたは個人)研究		實吉
6回	基礎的な文献講読を行う		實吉	21回	中間発表①		實吉
7回	基礎的な文献講読を行う		實吉	22回	中間発表②		實吉
8回	基礎的な文献講読を行う		實吉	23回	個別(グループまたは個人)研究		實吉
9回	保育実践・実習経験を振り返る		實吉	24回	個別(グループまたは個人)研究		實吉
10回	テーマ設定と研究方法について知る		實吉	25回	個別(グループまたは個人)研究		實吉
11回	テーマ設定と研究方法について知る		實吉	26回	模擬発表会と討議・発表準備①		實吉
12回	文献講読等を行う		實吉	27回	模擬発表会と討議・発表準備②		實吉
13回	研究計画立案・諸手続き		實吉	28回	卒業研究発表会における発表		實吉
14回	個別(グループまたは個人)研究		實吉	29回	卒業研究発表会における発表		實吉
15回	個別(グループまたは個人)研究		實吉	30回	講評・まとめ		實吉
試験等	レポート提出		實吉	試験等	研究レポート、振り返りシートの提出		實吉
[成績評価] 総合評価：中間発表・卒業研究発表への取り組み実践・意欲・態度50%、提出物(レポート・振り返りシート等)の内容・提出状況50%							
[準備学習(予習・復習等)の内容] 10回目以降は図書館利用を並行しながら授業を進めます。なお、授業時間以外の自主学習は必須です。特に、夏休み期間の十分な利活用が後期の学習に大きく影響します。不明な点は臆せず質問しましょう。							
	書名		著者		出版社		
テキスト	無し						
参考文献	無し						
[備考] 統一テキストは指定しません。各自のテーマに沿った参考文献等を個別に紹介すると共に、必要な資料が検索できるように学習します。メールを活用すると共に授業時に打ち合わせをし、授業時間以外の研究室対応も行います。							

科目名 (英語名)	ゼミナール (Seminar)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(たかき ゆうこ) 高木 友子	専任・非常勤
			233600			専任
2単位	開講期	通年	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 自分で研究テーマを見つけ、主体的に研究に取り組めること。						
[授業の具体的到達目標] 自分の興味のあるテーマを見つけ、調査研究し、成果を発表する。						
[授業の概要] 子ども、家族、保育に関する分野から自分の興味のあるテーマを見出し、個人もしくはグループで調査や文献講読を行い、研究し、成果をまとめて発表する。						
[授業計画]		[担当]	[授業計画]		[担当]	
1回	先行研究聴講		16回	調査研究		
2回	先行研究聴講		17回	調査研究		
3回	ガイダンス		18回	調査研究		
4回	情報リテラシー講習		19回	調査研究		
5回	テーマ設定		20回	分析と考察		
6回	テーマ設定		21回	分析と考察		
7回	参考文講読		22回	分析と考察		
8回	参考文献講読		23回	分析と考察		
9回	参考文献講読		24回	発表準備		
10回	参考文献講読		25回	発表準備		
11回	研究方法検討		26回	発表準備		
12回	研究方法検討		27回	発表準備		
13回	研究方法検討		28回	発表準備		
14回	研究方法検討		29回	発表		
15回	調査研究		30回	発表		
試験等			試験等			
[成績評価] 調査研究内容、発表成果、受講態度を総合的に評価する。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 必要に応じて課外も文献講読、調査、発表準備を行うこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献						
[備考]						

科目名 (英語名)	ゼミナール (Seminar)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(てるい ゆうこ) 照井 裕子	専任・非常勤
			233600			専任
2単位	開講期	通年	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 夏季休業期間中に卒業研究のための調査の実施（保護者や子どもを対象としたインタビューや観察など）を実施すること。						
[授業の具体的到達目標] 乳幼児期の親子・保育に関連したテーマを設定して独自の調査を行う。これを通して、保育者として乳幼児期の親子に対するかかわりを持つ際の留意点や援助・支援の方法について理解を深め、研究的に保育を行う姿勢を獲得する。						
[授業の概要] 「乳幼児期の子ども」、「乳幼児を子育て中の親」、「乳幼児の保育」に関連したテーマを設定し、個人もしくはグループで文献研究および調査を行い、その結果をまとめる。卒業研究発表に向け、取り組んだ研究の内容について、適切に伝えるためのプレゼンテーションについても学びを深める。						
[授業計画]			[担当]	[授業計画]		[担当]
1回	研究発表聴講①			16回	調査結果の分析②	
2回	研究発表聴講②			17回	調査結果の分析③	
3回	ガイダンス			18回	調査結果の分析④	
4回	気になる現象を探る①			19回	調査結果のまとめ①	
5回	気になる現象を探る②			20回	調査結果のまとめ②	
6回	調査方法を学ぶ①			21回	中間報告会①	
7回	調査方法を学ぶ②			22回	調査結果のまとめ③	
8回	文献購読①			23回	調査結果のまとめ④	
9回	文献購読②			24回	研究成果発表準備①	
10回	テーマ設定・研究計画立案①			25回	研究成果発表準備②	
11回	テーマ設定・研究計画立案②			26回	中間報告会②	
12回	テーマ設定・研究計画立案③			27回	研究成果発表準備③	
13回	テーマ設定・研究計画立案④			28回	研究成果発表準備④	
14回	調査実施報告会			29回	研究成果発表①	
15回	調査結果の分析①			30回	研究成果発表②	
試験等	中間課題の提出			試験等	最終課題の提出	
[成績評価] 調査及び課題への取り組み 50%，研究発表用レジュメ 25%，研究発表内容 25%の比率で総合的に評価する。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 調査計画や研究成果発表に関し、その進捗状況によっては授業時間外にもその準備等が必要となる。						
	書 名		著 者		出 版 社	
テキスト						
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定する。時間等については研究室前に掲示するので確認の上、来室すること。						

科目名 (英語名)	ゼミナール SEMINAR		科目コード	(ふりがな) 担当者	のぐち しゅういち 野口 周一	専任・非常勤
	2単位	開講期	233600			通年
2単位		開講期	通年	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] 毎日の新聞に必ず目を通していただきたい。それを通して、一つのテーマを追究することができればさらに良い。						
[授業の具体的到達目標] ① 授業を楽しむことができるようになる。 ② 私たちの身近なものの本質を考え、見通すことができるようになる。 ③ 課題について考え、まとめ、他者にその意図をきちんと伝えることができるようになる。						
[授業の概要] テーマ：「生活文化から時代と社会を考える」——そのための素材として、民話・説話、文学作品、唱歌・童謡などの愛唱歌、漫画・アニメを用いて、子育て、高齢者、家族のあり方など、社会とのつながりを含めた問題を考えていく。						
[授業計画]			[担当]	[授業計画]		[担当]
1回	テーマの取り上げ方を考える。			16回	『サウンド・オブ・ミュージック』を観る ①	
2回	民話「牛方と山姥」を扱う。			17回	同上 ②	
3回	民話「かちかち山」を扱う。			18回	同上 ③	
4回	民話「桃太郎」を扱う。			19回	愛唱歌「雀の学校」を扱う。	
5回	民話「浦島太郎」を扱う。			20回	愛唱歌「大きな古時計」を扱う。	
6回	民話のまとめ。			21回	『鉄腕アトム』を考える ①	
7回	『ハイジ』を読む ①			22回	同上 ②	
8回	同上 ②			23回	同上 ③	
9回	同上 ③			24回	『サザエさん』を読む ①	
10回	同上 ④			25回	同上 ②	
11回	『フランダースの犬』を読む ①			26回	『ちびまるこちゃん』を読む	
12回	同上 ②			27回	『どらえもん』を読む	
13回	『アラビアン・ナイト』を読む ①			28回	卒業研究発表練習 ①	
14回	同上 ②			29回	同上 ②	
15回	同上 ③			30回	同上 ③	
試験等	実施しない。			試験等	実施しない。	
[成績評価] 発表内容：70%、授業への取り組み姿勢：30%。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] テーマに即して指示する。						
	書 名		著 者		出 版 社	
テキスト	特に使用しない。					
参考文献	テーマに応じて紹介する。					
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付ける。						

科目名 (英語名)	進路・生活指導 (Life and Vocational Guidance)		科目コード 233605	(ふりがな) 担当者	(すずきひろみつ) 鈴木弘充	専任・非常勤 専任
	0単位	開講期	通年	授業方法 講義/演習		
[履修条件、準備等] 卒業後の進路について、しっかり考えること						
[授業の具体的到達目標] 卒業の進路を自ら選択し、それを目指して適切な方法で積極的に活動できるようになること						
[授業の概要] 1. 進路選択のための情報を得られるようになる 2. 就職・進学に向けて有効かつ適切な活動ができるようになる 3. 希望する進路に向けて、学生生活が送れるようになる						
[授業計画]			[担当]	[授業計画]		[担当]
1回	就職・進学に向けた活動の方法			16回		
2回	就職登録カードについて			17回		
3回	就職試験の傾向について			18回	後期は、進路に関する情報提供と	
4回	履歴書について			19回	活動報告を適宜行う。	
5回	公務員採用模擬試験(教養)			20回	また、幼稚園教諭免許、保育士資	
6回	公務員採用模擬試験(専門)			21回	格の取得に関わる手続きも行う。	
7回	作文・小論文について			22回		
8回	外部講師講演①			23回		
9回	マイスターによる指導①			24回		
10回	マイスターによる指導②			25回		
11回	就職活動のルール・注意点			26回		
12回	進路に関する情報提供			27回		
13回	進路に関する情報提供			28回		
14回	キャリアサポート課ガイダンス			29回		
15回	外部講師講演②			30回		
試験等	必要書類の提出			試験等	必要書類の提出	
[成績評価] 取り組む姿勢(50%)と必要書類の提出(50%)による						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 日頃から、希望する進路に関する情報を積極的に収集すること						
	書名		著者		出版社	
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 上記以外の担当者(實吉明子) 質問・相談等はオフィスアワーを利用すること(時間は、各研究室の扉付近に掲示)						